

英語 4 技能教育特別部会(東日本エリア)

実施報告

一般財団法人日本私学教育研究所 主催／日本私立中学高等学校連合会 後援

昨年2月からの新型コロナウイルスの感染拡大により、各学校においてはICTを活用し「学びを止めない」ための様々な工夫が行われています。一方、学校によってICT環境や活用方法には差があるのが現状で、教育格差の拡がりも懸念されています。ICT活用教育は学校現場においてより一層重要となるでしょう。

当部会は英語4技能教育に係る英語教育担当教員の指導力強化を目的として実施しています。今年度は、初日はICTを活用した英語授業、英語4技能教育を行う学校による実践発表を行います。その後は2日目にかけて、ケンブリッジ大学出版イギリス本社専門能力開発部門監修のプログラムを実施します。

本年度当部会は、東日本エリアの他に西日本エリアでも同一内容あるいは準じた内容のプログラムで行います。いずれもケンブリッジ大学出版のJapan Lead Teacher Trainerの指導の下での実施で、西日本エリアは令和4年2月に広島県広島市にて開催予定です。

英語教授の理論から実践までを扱い、2日間のプログラムを通して、英語4技能教育のさらなる指導力強化を目指しながら、ニューノーマル時代の英語教育のあり方を探ります。

◆ 会 期 ◆ 令和3年11月5日(金)・6日(土)

◆ 会 場 ◆ 主婦会館プラザエフ

東京都千代田区六番町15(JR四ツ谷駅より徒歩1分) 電話 03-3265-8111

◆ 参加者数 ◆ 29名

◆ 参加対象 ◆ 私立中学高等学校の英語科教員

※参加対象校は、都道府県私学協会加盟の私立中学校・高等学校・中等教育学校

◆ プログラム ◆

実践発表① テーマ「変わりゆく英語学習方法と英語教員の役割について考える」

発表者 佐々木 雄太 吉祥女子中学高等学校教諭

実践発表② テーマ「コロナが生んだパラダイムシフト」

発表者 中川 千穂 工学院大学附属中学高等学校教諭

Workshop 講 師 Tanja McCandie ケンブリッジ大学出版Japan Lead Teacher Trainer
英語教師のための4技能指導に関する研修プログラム(英語で行います。)

内容	11月5日(金): コミュニティプランゲージティーチングの特徴を確認し、クラスで使うことができるコミュニケーションアクティビティを学びます。 11月6日(土): 実践的なアクティビティを学び、教科書を使いながらどのようにアクティビティを取り入れるか、アイデアを共有します。レッスンプランの作成、評価、デモレッスンをを行います。 ※Workshopでは、ご自身がお使いの教科書を使用しますのでご持参下さい。																
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

◆ 日程概要 ◆

	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	30	50	30	10	30	10	30		30
11月5日(金)				受付	開 会 式	実践発表 ①・②	Workshop I Session1 Session2		
11月6日(土)	Workshop II Session1 Session2 Session3				昼食	Workshop II Session4 Session5		閉 会 式	

◆ 日 程 表 ◆

11月5日(金)

〔会場 主婦会館プラザエフ 9階 スズラン〕

11:30	受 付
12:30	開 会 式 司会 川本 芳久 一般財団法人日本私学教育研究所理事・事務局長
	1. 開 会
	2. 主 催 者 挨 拶 平方 邦行 一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長
	3. 研修会運営方針説明 平方 邦行 英語 4 技能教育特別委員会委員長
	4. 日 程 説 明
13:00	5. 閉 式
13:00	実践発表① 司会:佐藤貴明
	テーマ「変わりゆく英語学習方法と英語教員の役割について考える」
13:45	発表者 佐々木 雄太 吉祥女子中学高等学校教諭
13:45	実践発表② 司会:佐藤貴明
	テーマ「コロナが生んだパラダイムシフト」
14:30	発表者 中川 千穂 工学院大学附属中学高等学校教諭
14:30	Workshop I Session1 <コース概要と目的> 司会:佐藤貴明
15:00	講 師 Tanja McCandie ケンブリッジ大学出版 Japan Lead Teacher Trainer
15:00	Workshop I Session2 <Teaching Communicatively> 司会:佐藤貴明
16:30	

11月6日(土)

〔会場 主婦会館プラザエフ 9階 スズラン〕

9:00	Workshop II Session1 <Developing an English-speaking environment> 司会:中川千穂
9:30	講 師 Tanja McCandie ケンブリッジ大学出版 Japan Lead Teacher Trainer
9:30	Workshop II Session2 <Developing speaking skills, and incorporating speaking into your coursebook> 司会:中川千穂
10:50	Workshop II Session3 <Developing writing skills, incorporating writing into your coursebook> 司会:中川千穂
12:10	
12:10	昼 食
13:10	Workshop II Session4 <Planning your teaching around your coursebook> 司会:佐藤貴明
14:30	Workshop II Session5 <Micro teaching> 司会:佐々木雄太
16:00	閉 会 式 司会 川本 芳久 一般財団法人日本私学教育研究所理事・事務局長
	1. 開 式
	2. 総 括 平方 邦行 英語 4 技能教育特別委員会委員長
16:30	3. 閉 会
16:30	解 散

※プログラムの内容等に変更となる場合があります。

◆ Workshop 概要 ◆

11月5日(金)	
Session 1 (30 min)	コース概要と目的 2日間のトレーニングの目的を確認し、参加者の自己紹介、また現状認識とニーズを探ります。参加者は複数の“Getting to know you activities”に参加するとともに、これらのアクティビティがどのようにセットアップされて行われるかを体感することで、自身の授業にも活用できるようにします。
Session 2 (90 min)	Teaching Communicatively コミュニケーションランゲージティーチングの特徴を確認し、それらが学習者の言語能力をどのように高めるかを学びます。またセッションを通して先生としての役割を認識し、クラスで使えるコミュニケーションアクティビティを学びます。
11月6日(土)	
Session 1 (30 min)	Developing an English-speaking environment 英語だけで行われるクラス環境の有用性を学び、クラス内で英語の使用頻度を高めるアイデアを共有します。
Session 2 (80 min)	Developing speaking skills, and incorporating speaking into your coursebook スピーキングスキルを向上させる基本的な条件や環境を学び、それらの環境を作るための実践的なアクティビティを学びます。また教科書を使いながらこれらのアクティビティをどのように取り入れるか、アイデアを共有します。
Session 3 (80 min)	Developing writing skills, and incorporating writing into your coursebook ライティングスキルを向上させる基本的な条件や環境を学び、それらの環境を作るための実践的なアクティビティを学びます。また教科書を使いながらこれらのアクティビティをどのように取り入れるか、アイデアを共有します。
Session 4 (80 min)	Planning your teaching around your coursebook セッション2, 3で学んだスキルとアクティビティを実践で活かすために、使用している教科書を用いて効果的なレッスンプランの作成方法を考察します。参加者は、他参加者と協同してレッスンプランの作成、評価が求められます。
Session 5 (90 min)	Micro teaching 参加者は他参加者と協同してあるターゲットを達成するための一連のアクティビティをプランし、実際にデモレクソンを行います。デモレクソン後には、フィードバック共有と振り返りを行います。

◆ 講師・発表者・指導員（順不同）◆

Tanja McCandie ケンブリッジ大学出版 Japan Lead Teacher Trainer

Tanja McCandie has been involved in education for over 20 years, either as an English teacher, a publishing consultant, and/or a teacher trainer. She has taught in Canada, England and Japan. Tanja is currently working on her EdD in Educational Leadership, holds an MA in Applied Linguistics, a BEd in Secondary Education and BA in Sociology. She also has DELTA, CELTA, and TESL certifications and is a Cambridge English Speaking Examiner. Currently she is the Japan Lead Teacher Trainer for Cambridge University Press and teaches at Nanzan University.

中 川 千 穂 工学院大学附属中学高等学校教諭
 佐々木 雄 太 吉祥女子中学高等学校教諭
 平 方 邦 行 一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長

◆ 特別委員・指導員（順不同）◆

平 方 邦 行 一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長
 中 川 千 穂 工学院大学附属中学高等学校教諭
 佐 藤 貴 明 ドルトン東京学園中高等部教諭
 佐々木 雄 太 吉祥女子中学高等学校教諭
 川 本 芳 久 一般財団法人日本私学教育研究所理事・事務局長

◆ 概要 ◆

令和3年11月5日(金)～6日(土)、東京都千代田区・主婦会館プラザエフにおいて開催した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け2年ぶりの開催となった当部会には、全国の英語教員29名が参加した。

初日は、佐々木雄太・吉祥女子中学高等学校教諭、中川千穂・工学院大学附属中学高等学校教諭による実践発表を行った。その後2日目にかけては、Tanja McCandie・ケンブリッジ大学出版 Japan Lead Teacher Trainer によるワークショップを実施した。参加者は積極的に研修に取り組み、当部会は成功裡に終了した。

【11月5日(金)】

◆ 開会式 ◆

○主催者挨拶・研修会運営方針説明（平方邦行 当研究所理事・所長／英語4技能教育特別委員長）

文部科学省では現在、「先導的なオンライン英語研修実証事業（中・高等学校教員プログラム）」を行っており、私学にも150名の枠を頂き100名以上の先生方が参加している。英語の重要性は理解されているが、実際の学校の授業では上手くいっていない部分もある。これからの私立学校の教育において重要になるのは英語の教師である。もちろん変革の時代、激動の時代にあるという意識を管理職が持っていなければならないが、そのような時代の中で英語を重要視して学校の中心の1つにしていくことが普通であると考えている。



◆ 実践発表① ◆

「変わりゆく英語学習方法と英語教員の役割について考える」（佐々木雄太・吉祥女子中学高等学校教諭）

本校のICT活用は、中学生はタブレットまたはPCのみ教員の許可があれば授業等で使用できる。高校生はBYODを導入し、各自の端末を授業中に使っている。コロナ禍前から始めていたので遠隔授業の期間も授業は順調に進んだ。英語4技能のバランスについては、以前はReadingやWritingを重視し難しい教科書を使い、スピーキングはネイティブに任せていた。しかし新たにListening教材を取り入れたり、Speakingに関しても丸投げせず日本人も携わっていくようになった。バランスよく4技能の時間を割くために高校で扱う教科書もハイレベルなものからスピーキング活動に対応できるものにした。しかしテキストの変更を重ねるうちに、6年間を通して各技能を段階的にレベルアップしていくという点において、整合性が取れていないという問題点が浮き彫りになってきた。そこで6年間を見据えた英語教育を見直すため、各学年の目標を定め、4技能のCan-doリストを作るプロジェクトチームを立ち上げ、現在も活動中である。



本校は伝統的に祥友ゼミナールというプログラムがあり、高校1・2年生を対象に夏休みに勉強合宿を行う。コロナウイルスの影響で2020年度は中止されたが2021年度は通いで行うことができた。夏休みの始めに3日間18時間で「英語集中演習」と題して希望者を募ったところ、8名が参加した。この特別授業では、オンライン英会話を組み込んだ。オンライン英会話については、コロナ禍の遠隔授業準備の際、自分の英語力や発音について痛感したことがきっかけで始めたもので、素晴らしい学習ツールであると感じた。そして自分の授業とどうにか結びつけたいと以前より考えていた。演習当日の約2週間前にオリエンテーションを行い、またその日から英会話の課題を与えることで、生徒たちの英語を話すことに対する抵抗感を下げることができた。演習中は教育、貧困、環境問題、ジェンダー等のトピックを取り上げた。英語を使うだけでなく、このような問題について考える機会としたかったからだ。オンライン英会話はなんとなくやるのではなく目的意識を持って行うことが大切であると考え、講師に対する質問を事前に考えさせた。そして講師との会話の中で得た情報を共有しディスカッションをしたり、ディベートの情報源にしたりした。特にディベートはハードルが高く、1回のみでは生徒たちが自信を無くすだけだと考え、3日間の中で複数回チャンスを与えるよう計画した。当たり前かもしれないが、同じ形式を複数回繰り返すことで生徒は充実感を得ることができる。しかし、この当たり前を夏休み中に再確認できたことは大きかった。2学期の授業プランニングの際に生かすことができたからだ。たった数人対象の授業でも、その経験が全体に還元されることもある。

夏の特別授業は自分の個人的な思いで行ったものだが、教育活動の中で教員1人1人が強みを生かせる場を設けることが大切だと改めて感じている。学校としては全体のボトムアップが最重要であるかもしれない。また

少人数しかとらないような個のニーズに応じた授業内容は、塾や専門機関等に任せればよいという声もある。ただ、個の「ニーズ」こそが、生徒が本当に求めるものであり、かつ教員の持ち味を発揮できる場所だと感じている。内容については英文学であったり、ディベートであったり、難解な文法の説明等であってもよいと思う。少人数に対してでも気持ちの込められた授業を展開することに意義はあるのではないだろうか。とはいえ忙しい毎日の中で、費用対効果の低い授業は、後回しになってしまうことが多いだろう。しかしやりたいことをあきらめるのではなく、今ある仕事の方法を見直すことで、時間は捻出できる可能性が有る。Can-do などの全体のボトムアップとして必要な授業と、生徒のニーズに応じた授業、両方をバランスよく展開することを可能な限り追求していきたい。

テーマの「変わりゆく英語学習方法」だが、英語 4 技能の重視や ICT 活用により、様々な可能性が広がった。ICT は簡単で便利だが、大事なことは生徒の学力をつけることで、生徒の考える力を奪っていないか注意して提供すべきだ。また「英語教員の役割」については、生徒の主体性を大切にしたいファシリテーターとしてももちろんであるが、時には知識を上手に伝えるインストラクターとしての要素も必要だろう。重要なのは両者のバランスである。さらに授業外での教員の役割にも注目したい。Can-do リストの作成や夏の講習会の計画など、生徒の英語学習をデザインする力も求められている。そして最後に、教える立場であっても学び続ける姿勢は必要だと感じている。教員は学び続けることで自分の強みを持つことができ、ひいては生徒に還元されていくものであると考えている。

◆ 実践発表② ◆

「コロナが生んだパラダイムシフト」（中川千穂・工学院大学附属中学高等学校教諭）

本校は 4 月に日本で初めてケンブリッジインターナショナルスクールに認定され、ケンブリッジイングリッシュスクール、マイクロソフトインキュベータースクール、ラウンドスクエアの会員校でもある。

コロナによって多くの変化が起きたが、そもそも教育の変化が加速してきた。子ども達が学ぶべき資質として、19 世紀は 3R (Reading /Writing /Arithmetic)、21 世紀は 4C (Creativity/Communication/Critical thinking/Collaboration) と言われる。マイクロソフト教育センターは「21 世紀の学習活動デザイン (21CLD)」で、学ぶべき資質として ICT 活用、Collaboration、自律等を挙げている。ケンブリッジコンピテンシーでは、4C に加えて Learning to Learn を示しており、学校教育の中で「学び方を学ぶ」という時代になっている。急激に変化する世界で、過去に学んだものに固執しては前に進めない。新しいものを取り入れる方法を学ぶことが重要だ。本校は、ブルームのタキシノミーをもとに思考コードを各教科で制作し、高次思考となっていけるような授業の枠組みを作っている。また、英語科では Raising Independent Learner をモットーにしている。学ぶべき資質がこれだけあれば、学びにも様々なアプローチ、段階が必要だ。高校 3 年生のケンブリッジの教科書を見ながら、15 分授業を行う。



Topic : Education

Is there anything in your country' s education systems you would like to change?

Agree or disagree. : Distance Learning is a new idea?

How do you think, teaching should change in the future?

この後は単語学習、読解と進んでいく。先ほどのように、15 秒だけ生徒に答えを推測させ、30 秒で冒頭部分を読んで回答させる等、メリハリをつけた授業を実施するようにしている。ディスカッションの際には中央の機器で集音して、誰がどのくらい話したかをデータ化している。これによって分析・評価が簡単になる。なかなかアイデアが出ず、ディスカッションが盛り上がりえない時は、One Note 等で有用に ICT を活用していきたい。

最後に、私が考えている今後の教育についてだが、小説・マンガ・テレビ・ビデオ・ゲーム等、教育に良くないと言われるものが変わってきている。ケンブリッジは Minecraft:Education Edition とコラボレーションした。高校 3 年生の授業でこれを使いながら、論文を読んだり、ゲーム教育について考えたりといった活動を行った。このようにかつては教育に良くないと言われていたゲームも、これだけ教育活動に繋げ、活用することができる。子ども達の生きる世界は変わっているのに、未だに紙とドリルを使う、古典的な文法を教える、読解だけ取り組む、それでは確実にニーズにマッチしていない。ラウンドスクエアの国際大会がオンラインで開催されたが、Zoom ではなく Gather を使用していた。オンライン上の子ども達の集まり方も既に変化ってきている。教師はゲーム等を楽しいと思わなくても、新しい世界を生きている子ども達は違う。そういった感覚を理解して、教育に入れて

いく必要がある。冒頭で Learning to Learn に触れたが、2030 年に必要とされるスキルとして、マイケル・オズボーンは戦略的学習力を第一に挙げている。生徒も教員も、戦略的に学んで行くことが重要だ。そのためには新しい時代にそった学び方を得ていかねばならない。株式会社リバネスの代表取締役グループ CEO・丸幸弘氏は、QPMI サイクルを提言している。これはイノベーションを起こす人の考え方で、疑問が情熱に変わり、ものを生み出すというもの。生徒の疑問をかき立てるような教育者になりたい。詩人のロバート・フロストは Awakener になれと述べている。今日の発表が、皆さんの挑戦に対する Awakener となっていれば幸いだ。

◆ Workshop I ◆

Tanja McCandie・ケンブリッジ大学出版 Japan Lead Teacher Trainer

<Introduction and aims>

●Introduction

- History of Cambridge University Press
- Instructor's self-introduction
- Participants' self-introduction



●The aims of this session

- To be able to apply a range of technique for teaching speaking
- To be able to adapt your coursebook to ensure more effective learning
- To be able to reflect on your teaching and make decisions about developing it

<Developing an English-speaking environment>

●When do you speak English in Class?

- 授業のどのタイミングで英語を使うかをペアで確認する。

【ペアワークで出てきた例】 挨拶の場面 ✧ インTRODakション ✧ フィードバック
発問 ✧ スモールトーク ✧ 指示を出すとき 等

- 多くは文法を教える際に日本語を使うとした。日本人の前で英語を話す怖さはあるかもしれないが、教員がロールモデルとして生徒の前で英語を話すことが大切。完璧な英語はないので間違えを恐れる必要はない。

●Using English for class routines

- 教員が英語を話すときに大事なものは、相手に伝わりやすいということ。流ちょうである必要はない。日本語を使用する場合も、英語で先に伝えてから日本語で補足するという順番にすることが大切である。

●どんなクラスルームイングリッシュがあるだろうか。

- Language from teachers to students/students to teachers/students to students の具体例をペアで確認
- 【ペアワークで出てきた例】 ✧ 同じフレーズを繰り返し使う ✧ ジェスチャーを使う ✧ 言い換えを使う
- 授業開きの時、Classroom English を教えてあげることはとても重要である。それこそが「英語で教員が話し、生徒が英語を聞く姿勢を作ること」の秘訣である。
- Classroom English のバリエーションは徐々に増やしていくことが大切である。

<Teaching Communicatively>

●When do you speak English in Class?

- The aims of this session
 - ✧ To develop understanding of communicative competence
 - ✧ To raise awareness of characteristics of and approaches to CLT (Communicative Language Teaching)
 - ✧ To raise awareness of different teacher roles in CLT
 - ✧ To examine and demonstrate a selection of typical communicative activities

●Communicative competence

- accuracy (正確さ) と fluency (流ちょうさ) の両方が大切で、今行っている活動がどちらを重視しているのかを意識する。また、accuracy=perfection ではないということも理解する必要がある。
- complexity (高度な構造や語彙を使えること) と appropriacy (文脈に適した言語を使うこと) も大切である。

●A post-communicative approach

- 文法が重要であるということは専門家が共通で認識しているところである。伝統的な活動である暗記学習や

翻訳を用いた学習もその役割は担うのだろうが、言語の主たる目的は効果的なコミュニケーションをとることであり、そのためのタスクに焦点を当てることが大切である。

- ・言語学者である Paul Nation は、75%はコミュニケーションに重きを置いたタスクを行い、25%は言語に重きを置いたタスクを行うべきだと提案している。

●Teacher roles ✧ assessor ✧ diagnostician and planner ✧ feedback-giver
 ✧ instructor ✧ manager ✧ monitor ✧ rapport builder

【11月5日(金)】

◆ Workshop II ◆

<Developing speaking skills, and incorporating speaking into your coursebook>

●Types of speaking activity

- ・Which is the most important for you to achieve? Why?

I can understand English./I can speak English well./I know English well.

- ・What do you normally carry in your bag? Write down six things.

各々で考えた後、グループで”Have you got ~?”を聞き合う（現在完了の練習）

Reflection: 単語や文法等の言語要素はシンプルで、浅い会話になる

- ・休日についてのディスカッション

Reflection: 単語や文法等の言語要素は先ほどよりは複雑で、やや深めの会話になる

- ・Accuracy vs Fluency

Accuracy: 文法や語彙に気をつけて正しく話すことが目標となる

Fluency: 自由に話し、自信をつけ、円滑にコミュニケーションをとることが目標となる

Accuracy と Fluency のバランスを意識してアクティビティを組むことが重要

- ・Promoting fluency in the classroom

習った言語を繰り返し使用する機会がなければ、身に付くことはない

How can we promote fluency?

✧考える時間をとる（テンプレートを用意・場合によって日本語を使用）

✧自分自身について話す、インフォメーションギャップタスクを使う（好き嫌いや意見を問う）

✧繰り返しタスクをこなす機会を設ける（パートナーを換える、ペアやグループのサイズを大きくする、具体的なフィードバックをする）

- ・Managing speaking activities

Think carefully about the pairs or groups you will put learners in to do the activity

✧適切な人数は2~3人

✧レベルについては、調整をしたりしなかったりを状況に応じて

- ・Adapting speaking activities

生徒のレベルや状況に応じて、テキストに手を加え、適切なものにする

<Developing writing skills, and incorporating writing into your coursebook>

●Types of writing

- ・Eメール・新聞・SNS ライティングのタイプに応じて、スタイルやトーンを変えたりする必要がある

●Promoting written communication

- ・モデルとなるものを示す ・読み手を設定する
- ・使い勝手の良いフレーズや語彙を与える
- ・書くネタのとっかかりとなるようなものを与える

●Staging writing activities

- ・モデルを紹介 ・生徒の理解を確認
- ・使い勝手の良い言語アイテムを与える
- ・実際に自分で書いてみる



●Adapting writing activities

- ・生徒のレベルや状況に応じて、テキストに手を加え、適切なものにする

<Planning your teaching around your Coursebook>

●Use the checklists

- ・話す活動のためのチェックリスト
 - ◇発話による意思疎通を目指すこと
 - ◇話す内容を考える時間を学習者に与えること
 - ◇個人と内容を結び付けたり、未知の情報を入れたりする
 - ◇課題を繰り返す機会を与える ◇振り返る時間を与える ◇生徒が話す
- ・書く活動のためのチェックリスト
 - ◇例文がある ◇書く前に例文を読み、分析する
 - ◇書き方に型があり、書く目的がある ◇有用な表現に留意することができる
 - ◇思考を広げる質問をする ◇生徒が書く



・Evaluating a lesson plan

50 分の授業案を 2 人一組で修正する。その後、2, 3 のグループ合同で、修正案を共有する。
完璧な授業、授業案はない。改善を繰り返すこと。

<Micro teaching>

- ・4 名前後を 1 班とし、書くまたは話すことを目的とする授業をする
- ・Teachers, Learners, Observers に別れて実施
- ・準備、教授、参観、振り返りの 4 つの分野に分かれて実施

◆ 閉会式 ◆

○研修のまとめ（中川千穂 英語 4 技能教育特別委員）

この 2 日間、皆さんの熱量を感じた。本日体験したことを「自分事」として考えて頂ければ幸いである。Tanja McCandie 先生の「テキストは完璧ではない、どのようなレッスンも完璧ではない」という言葉が心に残っている。色々な学びがあったと思うが、それを目の前にいる生徒達に Adapt していくことが非常に大事である。1 つの良い授業例を皆が行えば成功するということはない。それぞれが個性を生かして、素晴らしい授業を作って、生徒達が羽ばたいていくことを望んでいる。



○総括（平方邦行 当研究所理事・所長／英語 4 技能教育特別委員長）

この研修会が良かったかどうかは先生方の心の内にあると思うが、本当に良ければ、学校に戻って、あるいは他校の先生と会ったときに当研究所で行っている研修会を勧奨して頂きたい。そうすることにより広がっていくことを期待している。残念ながら今回は申込期間がコロナ禍で一番大変な時期と重なり、少人数の参加となった。日本中には多くの英語の教員がいる。今回参加された先生方から、少しでも多くの先生にこの研修会を広めていって頂ければ幸いである。



◆ 参加者アンケート ◆

<回収率 59%>

○参加動機

- ・(管理職／英語科主任／上司／学校 等)に勧められたから。(6名)
- ・コミュニケーション型な授業を実践したいと考えているから。(3名)
- ・新しい情報をインプットし、自分のキャリアに繋がったから。

○実践発表①(佐々木先生)

- ・「教師自身が学び続けなければいけない」ということに強く共感した。
- ・(オンライン英会話／サマースクール 等)の取り組みを自校でも導入したい。
- ・ボトムアップを通して、個のニーズに答える大切さを学んだ。

○実践発表②(中川先生)

- ・新しい知識を得ることができて、勉強になった。
- ・教員の提供の仕方次第で、生徒の取り組みや進路、英語の上達具合が変わると分かった。
- ・ケンブリッジの教材を使ってどのように英語4技能を伸ばすか、ぜひ実践を見学させていただきたい。

○Workshop

- ・もっと英語を使って授業をしようと反省した。生徒と試行錯誤を楽しみながら挑戦していきたい。
- ・実際の授業や教科書を踏まえた内容で、とても参考になった。
- ・コミュニケーションにフォーカスした授業をこれから意識したい。

○今後の要望

- ・ケンブリッジ出版の活用事例。
- ・ICT機器を実際に使った事例紹介や、体験をしたい。
- ・探究、これからの教育、All Englishに特化したもの等。

◆ 都道府県別参加人数 ◆

都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数
北海道	0	群馬	0	岐阜	0	和歌山	0	高知	0
青森	1	埼玉	0	静岡	3	鳥取	0	福岡	0
岩手	0	千葉	1	愛知	3	島根	0	佐賀	0
宮城	0	神奈川	3	三重	0	岡山	0	長崎	0
秋田	0	東京	12	滋賀	0	広島	0	熊本	0
山形	0	富山	0	京都	0	山口	0	大分	0
福島	0	石川	0	大阪	2	徳島	0	宮崎	0
新潟	0	福井	0	兵庫	0	香川	0	鹿児島	0
茨城	3	山梨	0	奈良	0	愛媛	0	沖縄	0
栃木	1	長野	0	9 都道府県 29 人					

次年度(令和4年度)は英語5技能教育特別部会と改称し、下記の日程で開催いたします。
東日本エリア：令和4年5月12日(木)～13日(金) 洗足学園中学高等学校(神奈川県川崎市)
西日本エリア：令和4年9月8日(木)～9日(金) 修道中学校・修道高等学校(広島県広島市)